

III キケン III

有川 浩

全力疾走の、
準備はいいか。

成南電気工科大学機械制御研究部——通称【機研】^{キケン}。ただの略称ではある。しかし新入生の元山と池谷がそこで見たのは、まさに「キケン」な日常だった！「爆発炎上は男のロマン」と熱弁し実践してしまう部長・上野と自由すぎる彼を制する副部長・大神のもとで過ごすうち、知らず知らず彼らもまた【機研】の日常に染まっていく——。

今回紹介する小説『キケン』は、工学系男子たちの熱い青春の物語である。犯罪ストレスの爆破実験を平気でやってしまうような彼らの日常は、確かに我々には少々縁遠いものかもしれない。そもそも部長が小学生にして自室でロケット花火を打ち、母屋を出入り禁止にされた男なのだ。しかし部員がラブレターをもらっただけで大騒ぎをしたり、ロボット相撲大会に少年のように夢中になったりする彼らの姿には、自分自身の姿を重ねてみたくなるだろう。

そんな彼らの物語の中心となるのは、中盤の学祭をめぐるエピソードだ。部長に強引に店を任された一回生たちが奮闘し、何かと因縁のあるPC研からの妨害に立ち向かいながらも学祭期間を生き生きと駆け抜けていくことになるのだが、彼らの姿からはその苦労を本当に楽しんでいる様子が伝わってくるのだ。自分たちの小さな模擬店にひたすら没頭する彼らに引き込まれ、こちらも夢中でページをめくってしまう。

大学時代は若さに任せて無茶のできる、おそらく最後の時間だ。著者有川浩氏の軽やかでテンポの良い文体は、彼らのそんな最後の青春を疾走感たっぷりに描き出している。貴重な時間を走り抜けていく彼らを追いかけてながら読み進めるうちに、いつの間にかあなたも彼らと同じ目線で走っているような気になってしまうだろう。「本気で遊ぶ」がモットーの【機研】の無茶苦茶な日々を、あなたもぜひ一緒に駆け抜けてみてほしい。

INFORMATION

『キケン』

著者：有川浩

出版社：新潮社

定価：550 円（税別）



はみだし
すてーじ

小説家になりたいけど壁が高い…
⇒壁も爆破していきましょう

（文・2 ボール）
（夢に向かって全力疾走；編）